



派遣海賊対処行動航空隊第33次帰国

1月30日（水）、八戸航空基地において、ソマリア沖・アデン湾で海賊対処の任務に就いていた派遣海賊対処行動航空隊第33次要員の帰国行事を行いました。

33次要員は、昨年10月12日に八戸航空基地を出発し、現地において63回（430時間）の任務飛行を完遂し、隊員や家族らの出迎えのもと、約3か月ぶりに八戸航空基地に降り立ちました。

帰国行事では、まず始めに33次要員の指揮官を務めた栗下2佐が山田防衛大臣政務官へ帰国報告を行いました。その後、山田防衛大臣政務官が、「派遣された隊員諸君におかれては、我が国を取り巻く安全保障環境が格段に速いスピードで厳しさと不確実性を増している中、国民の生命・財産と我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くため、高い士気をもって引き続き崇高な任務に邁進されることを望みます。」と海賊対処の任務を完遂した隊員を称えました。それに続き、第2航空群司令が自衛艦隊司令官の訓示を代読し、「今年、派遣海賊対処行動開始から10年の節目を迎える。諸君が得た貴重な経験及び教訓を、今後派遣される隊員にしっかり引き継ぐとともに、これまで一人一人が果たしてきた役割と成果に誇りと自信を持ち、今後の勤務の資として更に邁進してもらいたい。」と述べました。

帰国行事終了後は、栗下2佐が取材に対し、「過酷な環境の中、任務を完遂し無事総員が帰国でき、安堵しています。今回の任務は、今後の国内での任務に大変有益となるものになりました。」と答え、達成感に満ちた表情を浮かべていました。

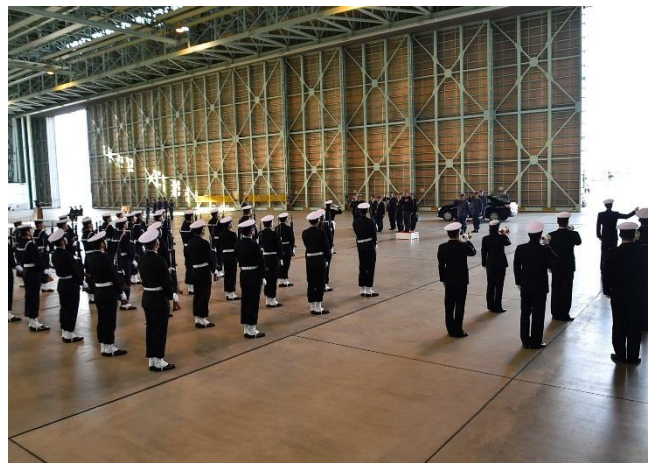
派遣期間中、温かい声援を送って下さった国民の皆様、そして派遣中の隊員を支えて下さったご家族の皆様に心から感謝いたします。



約3か月ぶりに八戸航空基地に降り立ちました！



家族の出迎えに、自然と笑みがこぼれました！



隊員も拍手で出迎えました！



帰国行事にて栄誉礼を受ける山田防衛大臣政務官



33次要員帰国に際し訓示を行う山田防衛大臣政務官



帰国行事終了後、33次要員指揮官へ労いの言葉をかける山田防衛大臣政務官